

バリアフリー整備の現状について

空港旅客ターミナルはバリアフリー施設の整備が進んでいるが一層の旅客利便の向上のため、施設の更なる機能向上が必要

	単位	現況値（時点）	目標値（目標年次）				
（空港ターミナル）	%	5 %（平成 12 年度） （参考）身体障害者が利用できるエレベーター・エスカレーター・スロープの設置率：100 %（注）	70 % （平成 17 年度）				
<p>指標の解説 1 日当たりの平均的な利用者数 5000 人以上である空港ターミナルのうち交通バリアフリー法に基づく移動円滑化基準第 4 条（移動経路の幅、傾斜路、エレベーター、エスカレーター等についての基準）に適合する施設。</p>							
目標設定の考方 上述。		（参考）過去の実績値					
		H8	H9	H10	H11	H12	
						5 %	

（注）1 日当たりの平均的な利用者数 5000 人以上の空港については、エレベーター、エスカレーター、スロープ等の基礎的な施設の設置は 100 %行われているが、バリアフリー法においては、エレベーターの幅の広さ、スロープの勾配等、個々の施設の諸元が詳細に定められており、これに適合している施設基準を全て満たしているターミナルは現状では 5 %となっている。

e-エアポートの実証実験及び調査研究

IT戦略本部
決定

「e-Japan2002プログラム」(H13年6月)

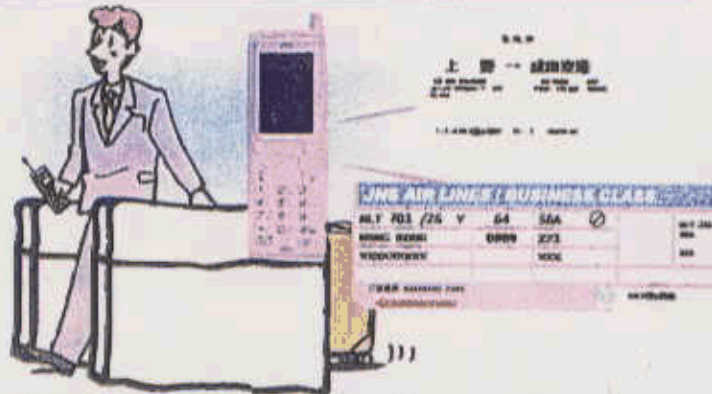
2005年に実現される世界最先端のIT国家の姿を国民のみならず世界に広く提示するためのショーケースとして、官民の総力を結集し、「e!プロジェクト」を推進する。具体的には、例えば、国際空港において高速無線LAN環境の整備等を行い(e-エアポート)、…中略…IT革命の果実を実感できるものとする。

次の施策について官民が協力、分担して推進

e-チケット

(航空旅客移動の総合支援)

- 携帯電話上に電子的にチケットを発券すること等により、旅客移動をスムーズに



e-インフォメーション

(アクセス公共交通情報・フライト情報の総合提供)



- フライト情報、アクセス公共交通情報を、個々にリアルタイムに提供

e-NAVI

(モバイル端末による総合情報サービス提供)

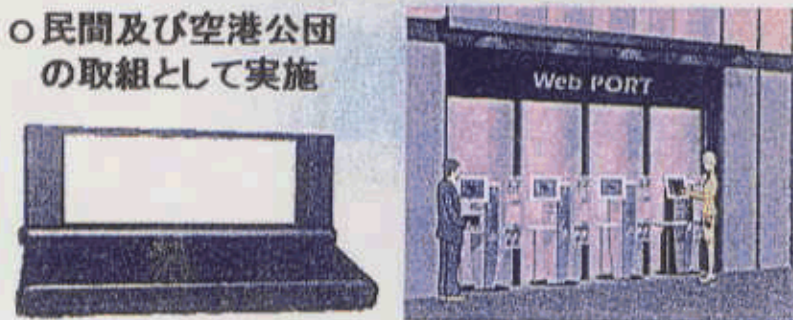
- 外国語による観光案内等



エアポートネット

(空港内インターネット接続環境整備)

- 民間及び空港公団の取組として実施



国際拠点空港へのアクセス圏

関西空港は、内陸乗り継ぎや空港までのアクセスの面で利便性が高く、短時間でアクセスできるエリアが広大

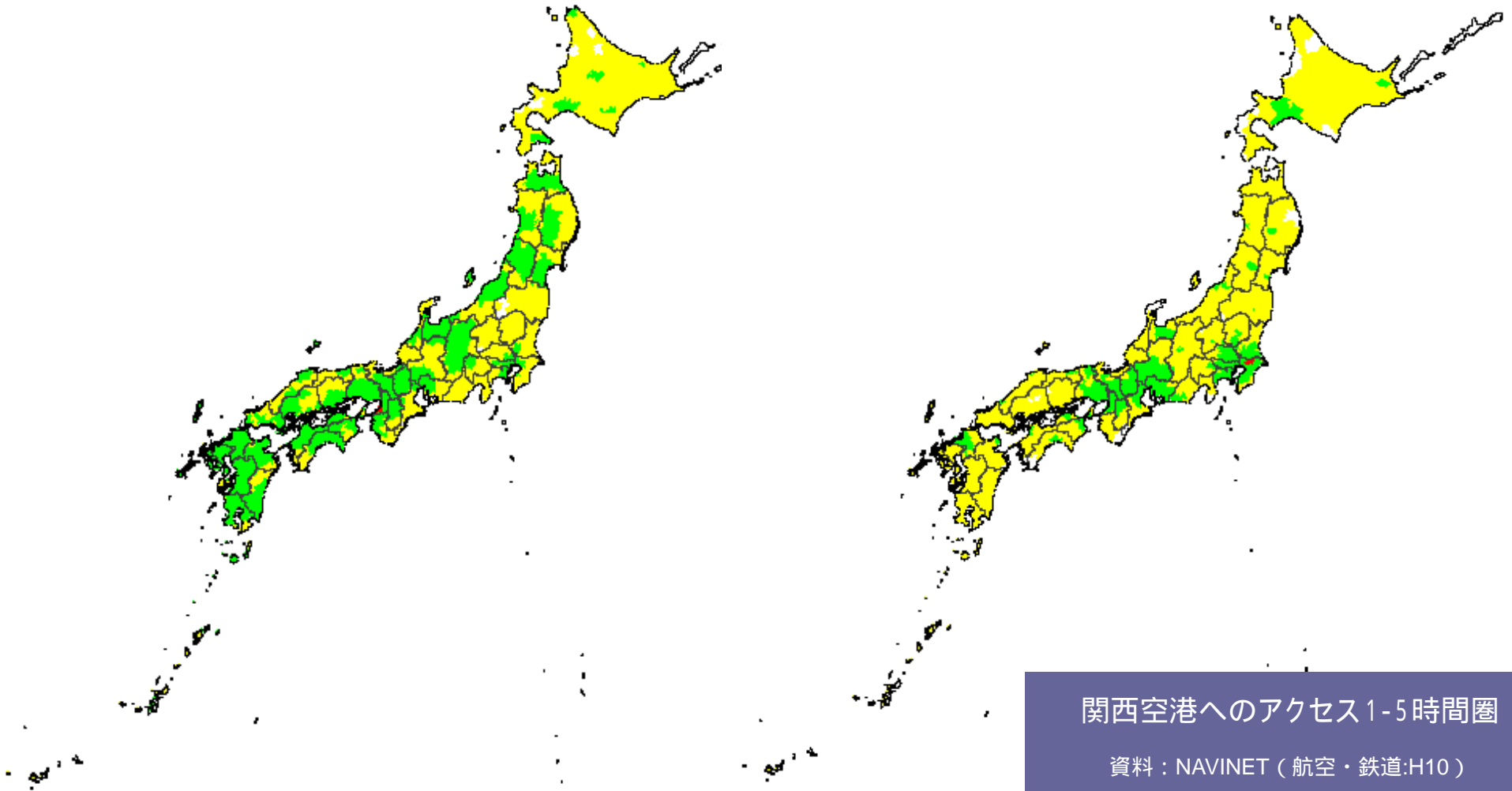
成田空港	1時間圏域	2時間圏域	3時間圏域	4時間圏域	5時間圏域
カバー人口	762,773	28,029,519	74,285,612	114,132,447	124,567,471
人口カバー率	0.60%	22.30%	59.20%	90.90%	99.20%

関西空港	1時間圏域	2時間圏域	3時間圏域	4時間圏域	5時間圏域
カバー人口	864,849	31,136,331	88,432,848	120,263,773	125,362,145
人口カバー率	0.70%	24.80%	70.40%	95.80%	99.90%

関西空港

1時間圏 3時間圏 5時間圏

成田空港

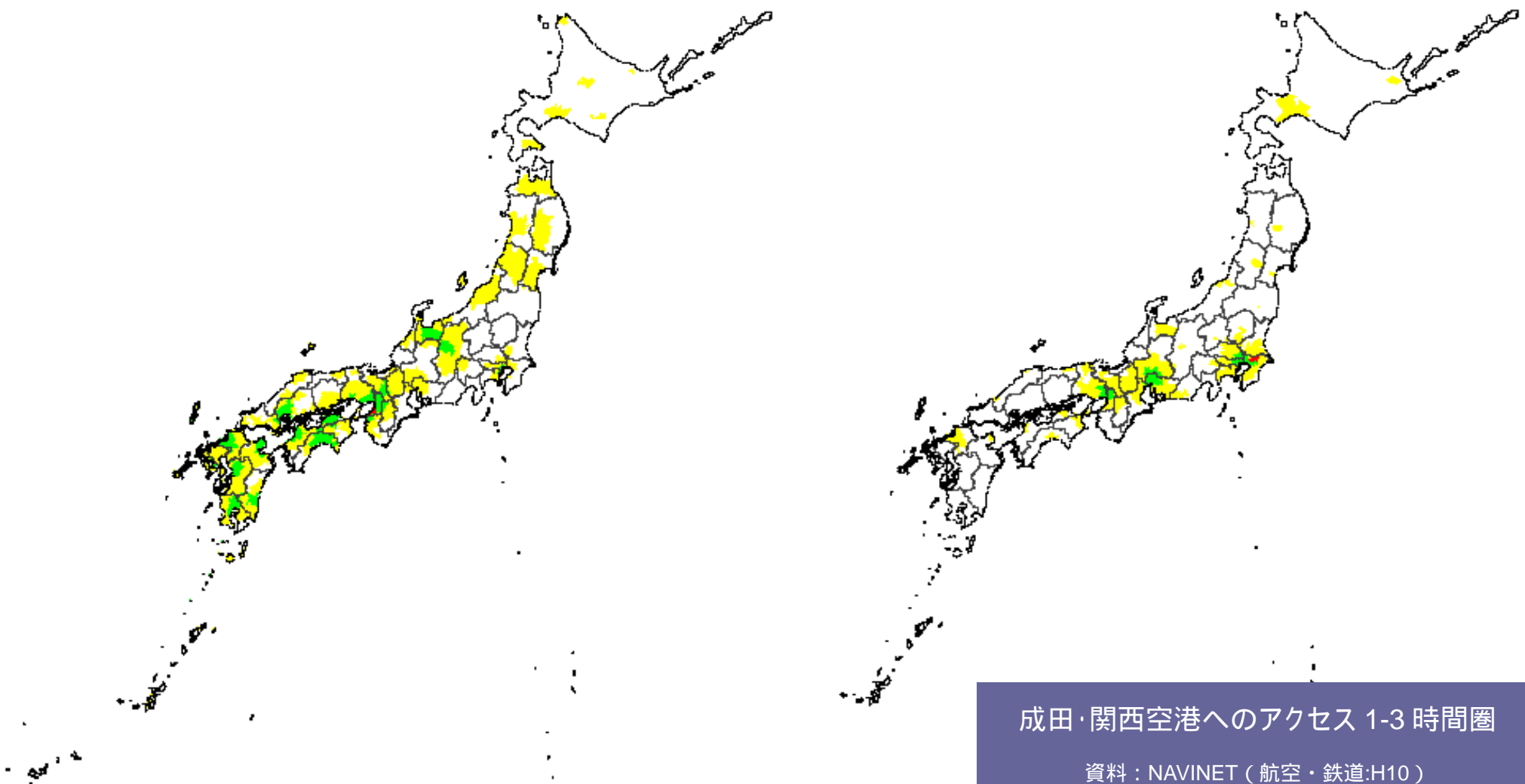


関西空港へのアクセス1-5時間圏
資料：NAVINET（航空・鉄道:H10）

関西空港

1時間圏 2時間圏 3時間圏

成田空港



成田・関西空港へのアクセス 1-3 時間圏
資料：NAVINET（航空・鉄道:H10）